

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/05/01 ～2018/05/31)

1. 勉学の状況

前学期と違い、Deutschkurs は週 3 回に増えたので習う分量も相応に増える。文法事項だけで今月までに、形容詞、比較級・最上級、理由(weil)・目的語を表す複文の作り方、3格・4格の代名詞、形容詞の弱変化、序数詞を習った。また、教科書のトピックごとに覚えていかなければならない単語も多い。Einkommen, Beschäftigung und Preisniveau では、IS-LM 曲線を構成する要素と均衡点の求め方、フィスカルポリシーやマネタリーポリシーでの均衡点の変化、コブ・ダグラス生産関数などを扱った。Democracy in the European Union では、民主主義とは何かから始まり、ヨーロッパ連合での現在の問題点として挙げられている Democratic deficit(民主主義の赤字)について触れられた。民主主義の赤字とは、EU の政策は欧州委員会に参加する加盟各国代表によって決められているので、加盟国の人民の意思との乖離があるのではないか、ということを表している。しかし、加盟国の人民はそもそも EU の民であるという意識は強く持っていないので、一概に直接選挙制度を導入すればいいわけでもない、ということだとか。EU という組織についてなんとなく存在は知っていたが、民主主義の側面で問題を抱えているとは想像もしていなかったので新鮮な授業だった。

2. 生活の状況

【あのナイトミュージアムは実在した！？春の夜に"Nacht der Museen"行ってみた】

4月第2週の土曜の夜、普段なら人を追い払う時間の美術館・博物館の前には多くの人が並んでいた。今宵は1年に1回だけ、夜の美術館に入館できる"Nacht der Museen"の日。駅や観光案内所で売っている共通チケットを買えば、その一晩に限り、好きなだけ美術館や博物館に入っても良いのだ。あまり映画は見ないが、金曜ロードショーで「ナイトミュージアム」を見たことのある筆者は、(きっとあの映画のような冒険じみたスペクタクルがあるに違いない)、などと大学4年生とは思えない妄想を広げながら、入館までの退屈凌ぎをしていた。

最初に入ったのはK20州立美術館。パブロ・ピカソ、アンディ・ウォーホル、マックス・エルンストなどの近・現代絵画作品が数多く展示されている。展示されている作品にも目が行くが、それよりも私が驚いたのは、人の多さである。芸術に興味を持っている人がこんなにいるとは思ってもいなかったのである。欧州人は外見から年齢層を判別するのが難しいが、20代からお年寄りまで幅広く観覧していたので、どうやら住民と^{クンスト}Kunst(芸術)の親和性は高いようである。

作品をひとしきり堪能したところで、私は次の目的地を目指しバス停へと向った。"Nacht der Museen"では、3ルートの巡回バスが10～15分間隔で運転されているので、移動は比較的簡

単である。しかし、どうにも私は乗るバスを間違えたらしく、(この先どうしようか)と揺られながら迷っていたところに、軽快な音楽が耳に流れてきた。寄る辺無き私は、まさしくローレライの歌声のように、その場へと引き寄せられて行くのだった。

降り立った場所は陶器博物館。世界各地の陶器類の展示を行っている。しかし今日は単に展示場を開くのではなく、気鋭のバンドが演奏していたのだ。簡易なテーブルとイスは人で埋まり、ビールやワインを片手に聴き入っている。私も別館で販売されていた軽食を片手に、五感で刺激と喜びを頂く。久しく感じていなかったこれらのパルスは、有限の時を縮めていく…。

午前1時、私はベッドへと倒れこんだ。これまで書いた2箇所以外にもゴスペルライブに第二次世界大戦で使われた防空壕なども拝見し、その日はどうやらよく眠れたようであった。私が訪れることの出来なかった場所がまだまだ沢山あるので、4月にデュッセルドルフを訪れる際は、是非お好みのプランを立てて“Nacht der Mussen”に参加してみたいだろうか。

【東南欧26泊28日の旅：ミラノ前編～鳩を操りし者～】

3月6日、昼下がりのミラノ中央駅で筆者は戸惑っていた。駅のデザインとは思えない、壁中に広がる美しい彫刻の数々に感嘆の息を漏らしたのもさることながら、ホテルへの行き方がよくわかっていない、という単純明快な問題があったのだ。恐る恐る銃で武装している軍の人にホテル周辺の地図を見せて行き方を訪ねてみたものの、英語があまり使えないようで有益な情報が得られない。その後なんとか行き方がわかった我々は、メトロの自販機でチケットを買おうと画面を操作していると、「どこまで行くの？」と親切なおばさんが話しかけてきたので、その人と一緒にチケットを買おうとすると、友人とメトロの職員から同時に「そいつの話を聞くな！！」と総ツッコミを喰らった。その瞬間、(ああ、これが噂に聞く奴らか…)などと呑気に思ったのだった。奴らは少々の知識やサービスと引き換えに暴利的な金銭を要求してくる。その時は難を逃れ、その後何事もなくホテルにたどり着いたのだが、奴らとの邂逅はこの一度きりではなかった。

翌日だったか、翌々日だったか、筆者と友人はドゥオモの前にいた。その日は天気も良く、イタリアの穏やかさを感じながら観光していた。清潔感のある単純な配色とドゥオモの神秘性を見せるための細かなディテールとが、一種のアンビバレンスと言える雰囲気を感じていた。その雰囲気に徐々に飲まれながらフラフラと近づいていると、急に男が握りこぶしを目の前に出してきた。なぜだかわからないが反射的に手を差し出してしまった筆者。手の平に落とされたのは、炒ったトウモロコシ。すると、男は(片手を上にあげるように)というジェスチャーをするので挙げてみると、大量の鳩が手や腕の周りにエサを求めて集まってきた！その様子を写真に収めるように友人に支持する男。わけがわからぬまま写真を取り終わると「はい、じゃあ50ユーロね」と言われてしまった。そこで筆者は、アホのフリをして50セント硬貨を差し出してみた。「違う違う、50ユーロだ」と男は言うので「からかうなよ。金を貰えるだけありがたいと思ってくれ。」と言って離れていった。まったく、落ち着きのない街である。しかし、知識としてはこれらのようなボッタクリがいるのは知っていたが、まさか鳩を使ってまでぼったくってくるとは思ってもみなかった。皆さんもイタリアに行った際はお気をつけいただきたい。

【東南欧 26 泊 28 日の旅: ミラノ後編~本場の味は違うって本当?人気のピッツェリアを調査~】

イタリアとピッツァ、互いに互いを連想させる言葉としてこれほど有名なものもないだろう。それほどにイタリアでは馴染みのある料理なのである。そしてイタリアを旅した者は口を揃えてこう言うのだ、「本場の味は違う」と。私はその言葉に半信半疑でいた。いわゆる“脳内補正”というやつで、そこそこ美味しいピザを“本場の味”というバイアスが“絶品”という認識にすり替えているのではないか、それすなわち「本場の味は違う」とは“格の違い”ではなく“予想・期待との違い”ではないかと考えていた。イタリアに滞在しているならば、この疑いの真偽を確認しないわけにはいかないだろう。というわけでネット検索をかけて、ミラノで人気のピッツェリアに行ってみることにした。

メインストリートの端の交差点を右に曲がると、右手に柔らかな光を外にたたえる店が現れる。覗いてみると、十人以上が順番待ちをしていた。入口をくぐると、エントランスホールとピザ生地を作る作業場があった。老若男女色々な年代の人達がテーブルにつき、楽しそうに食事をしている。スタッフも紳士的な対応で我々にしばらく待つよう促し、順番が来ると席まで案内してくれた。さて、何を頼むべきなのか。(シンプルな料理ほど、料理人の力量がハッキリとわかる)と料理の鉄人で服部先生が言っていたので、私はピザの王道マルゲリータとドルチェ(デザート)にティラミス、飲み物は水を注文することにした。

待つこと 12 分、ついに本場のピッツァとご対面。薄い生地にポモドーロソースを広げ、モッツァレラチーズとバジリコで飾られた、配色的にもまさにイタリア代表だと言わんばかりのピッツァである。いざ実食。一口がぶりと頬張ると「……美味え、これは美味えわ」、わずか 3 秒で疑いは晴れた。ピッツァ生地にはほのかな塩気、モッツァレラチーズはクセがなく、それでいて濃厚な味わいで、トマトの酸味と加熱されたことによって生まれる太陽のような甘みをバジリコが繋ぎつつ、その特有の香りでさらに完成度を高めている。ヨーロッパに来てからというもの、日本でいう洋食で絶品と感じたのはこれが初めてであった。あっさりとしたらげてしまったものの、満腹感もちょうど良く感じられる量で、この点もポイントは高い。ドルチェも十分なクオリティーだったので、悪く言うところが特に無い。というわけで調査結果は【本場の味はやっぱり格が違う】、と締めたいところなのだが、ここまで私が書いてきたのは完全に主観で見て味わったものであり、一切の客観性がないので、鵜呑みにせずにあくまで参考程度に見ていただきたい。

[次回予告]…ヴェネチア行き特急の出発時間 30 分前に着くような列車に乗るはずが、27 分遅延したせいで、ミラノ中央駅の階段を大きいキャリーケースを振り回しながら全力で駆け上がる筆者たち。車内で乱れた息を整えているうちに眠ってしまった筆者が目を覚ますと、そこはすでに

アドリアの女王が領土の中だった…。^{ネヒステマール}Nächste Mal、【東南欧 26 泊 28 日の旅：ヴェネチア編~真珠の迷宮~】

次回は【Japan Tag～日本で見るとより美しい空の華～】、【東南欧26泊28日の旅：ヴェネチア編～真珠の迷宮～】について書いていこうかと思えます。